

所属班		西部	エリア班	
段階	今のあなたの立場でやるべきことは、何だと思えますか？		左の欄に書いた「やるべきこと」を実現するうえで、課題となっていることは何ですか？	
	誰の	意見	誰の	意見
災害が起きる前に… (普段の対策)	消防団 三村 康行	消火栓、防災水槽の位置確認 自然水利の利用方法確認 機械器具の点検 巡視	消防団 三村 康行	消火栓、防災水槽の数が少ない
	小学校 安藤 宏幸	防災教育の推進 6年生の12歳教育の推進 避難訓練の改善 防災教育年間指導計画の作成 教職員への啓発と指導 地域と学校の連携(避難訓練、避難所開設)	小学校 安藤 宏幸	地域と学校との話し合いがまだ実施されていない 教職員に対する啓発をさらに進める必要がある 防災教育の年間指導計画が未完成 防災教育の授業公開など
	保育園 飯尾 勝一	どんな災害があるか子どもに伝える 地域との交流を大切にする 避難場所の確保 救援体制の整備 避難訓練をする 家具の固定、物を置かない	保育園 飯尾 勝一	各機関や地域と情報交換 避難場所を確認する 想定をして必要と感じたことを文章で残す 保育士自身が災害についてもっと知る
	自治会 田口 勝三	自主防災組織結成の呼びかけ 災害時要援護者名簿の作成 避難誘導支援 安否確認の役割分担 支援者間の連絡網の確率 訓練実施と意識啓発 住宅の耐震対策(特に居間、寝室) 一週間分の備蓄	自治会 田口 勝三	自主防災組織の長は長期就任できる人選が必要 要援護者の名簿登載を民生委員が連携してすすめる 高齢者の住宅耐震化 耐震化費用の助成 備蓄品の日常的な管理 高齢者が備蓄品を持ち運べるか心配
	福祉施設担当者 水谷 勝	避難訓練の実施 器具備品の固定 設備の点検(自家発電機など) 重要書類を本部へ移管している 非常用備蓄品の整備 地域・行政との交流、協力体制を築く	福祉施設担当者 水谷 勝	田んぼ埋め立て地であるため液状化が心配 固定済箇所の再点検 飛散防止フィルムを貼付が必要
	防災士 黒河 紘一郎	自主防災組織結成100%を目指す 地区防災士との連携で防災意識の高揚を図る 地区で防災についての課題を話し合う 地域住民への防災知識の普及啓発 避難誘導時の職員・団員の避難時期のマニュアル化	防災士 黒河 紘一郎	防災意識の高揚 多くの参加者による定期的な防災訓練 責任者や役員の高齢化 訓練指導の参加人数が少ない 若い人の参加が少ない 消防関係者の避難時期の遅れ 予算措置
	市職員 真鍋 博樹	消防車両の被害防止のマニュアル化 自然水利の揚水箇所の調査 長距離の揚水ができる資機材の整備	市職員 真鍋 博樹	
災害が起きたときに… (発災時)	消防団 三村 康行	全団員の安全確認 倒壊建物からの救助 火災時の対応 消火設備が使用できるか確認 現地までの通行状況確認	消防団 三村 康行	ポンプ自動車を使用できない場合の小型動力ポンプの数が少ない
	小学校 安藤 宏幸	児童の安全確保 情報収集と連絡(市教委など) 保護者への児童引き渡し		
	保育園 飯尾 勝一	避難場所への安全な誘導 子どもたちが安心できる言葉かけ、雰囲気づくり 保護者との連絡、安全な引き渡し 関係機関と連絡をとる	保育園 飯尾 勝一	保護者との連携を大切にする 保育士自身が落ち着いて行動する必要がある
	自治会 田口 勝三	避難誘導を行う	自治会 田口 勝三	高齢化社会では公助に頼らざるを得ない
	福祉施設担当者 水谷 勝	安全を図る(頭部の保護など) 避難路の確保 火の始末を徹底 避難のためつっかけを常設	福祉施設担当者 水谷 勝	避難路に備品を置かない
	防災士 黒河 紘一郎	まず自らの身を守る 被災状況を確認 二次災害に遭わない様避難準備	防災士 黒河 紘一郎	地域や家庭で命を守る話し合いの徹底 地震対策を重点的に取り組む 被災状況を的確に把握できるかどうか 活動人員の確保及び救助用資機材の不足 自主防災組織や地域住民との協力活動できる体制づくり 消防団との情報共有及び連携ができるか不安 救援要請の殺到で情報整理が困難 部隊の活動状況の把握困難
	市職員 真鍋 博樹	火災・救急・救助活動 被害情報の整理 統制のとれた部隊運用	市職員 真鍋 博樹	
災害が起きた後に… (発災後)	消防団 三村 康行	情報収集活動 連絡を密にする	消防団 三村 康行	団員幹部が使用できる無線が少ない
	小学校 安藤 宏幸	避難所の開設(校内の施設管理) 地域(家庭)との連携 教職員指導 教育再開準備(市教委との連携)	小学校 安藤 宏幸	防災士の研修 学校と防災士の連携
	保育園 飯尾 勝一	子どもたちが困った状況を見直す 保育園が地域の中でできる事を見直す	保育園 飯尾 勝一	良かった事・課題を話し合い情報を共有
	自治会 田口 勝三	適切な避難所運営	自治会 田口 勝三	避難所生活はプライバシー保護 衛生面の問題 復興費用の助成
	福祉施設担当者 水谷 勝	緊急対策本部の立ち上げ 情報収集、設備点検、安全確保 避難するか留まるかの決断 利用者の不安解消に努める 市・県・国との情報交換 職員間の定期的な情報共有 被害状況に応じ救援要請 公衆電話の活用(10円玉の確保) 携帯電話メール、ツイッター等SNS活用 地域の防災拠点として対応 施設利用者の救護 要介護被災者の救援 行政からの支援要請による協力 水・食料の提供 給水車出動・ペットボトル水供給要請 ボランティアの要請 支援物資の要請 義捐金の要請 施設環境・衛生管理 施設建物・設備の被害状況の確認 損害保険による補償の確認	福祉施設担当者 水谷 勝	国・地方自治体による補助金を期待
	防災士 黒河 紘一郎	被災状況を確認 被災者の救助 避難体制をとる 各担当に的確な指示をする 行政や各機関と連携する	防災士 黒河 紘一郎	情報網の確保 避難場所の確保 被災者の救済と確認 地域での災害対策本部体制の徹底
	市職員 真鍋 博樹	緊急車両の通行可能箇所の調査 被害情報の収集 情報の共有	市職員 真鍋 博樹	幹線道路の大渋滞 混乱の中での情報共有